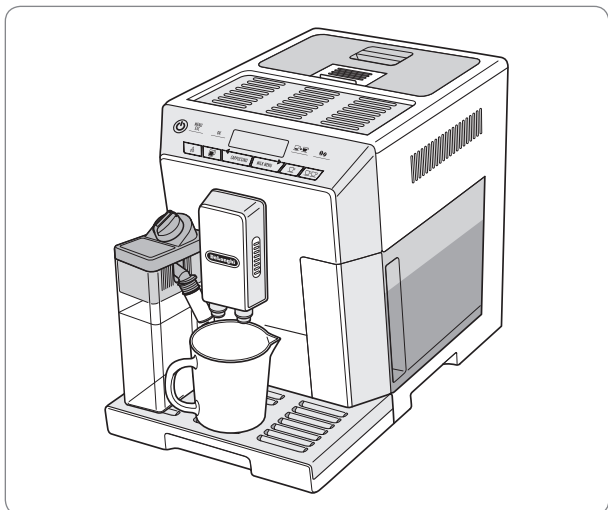


ミルクノズルを洗浄する

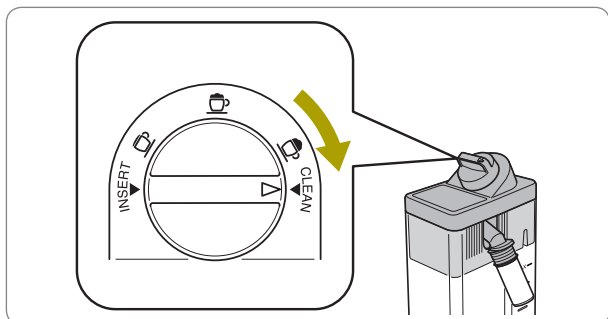
牛乳を泡立てたときは毎回行ってください。

- 1** ミルクコンテナを取り付けたまま、ミルクノズルの下に空の容器を置く



- 2** フロス調整つまみを「CLEAN」に合わせて、洗浄を開始する

熱湯が出てミルクノズルを自動洗浄します。

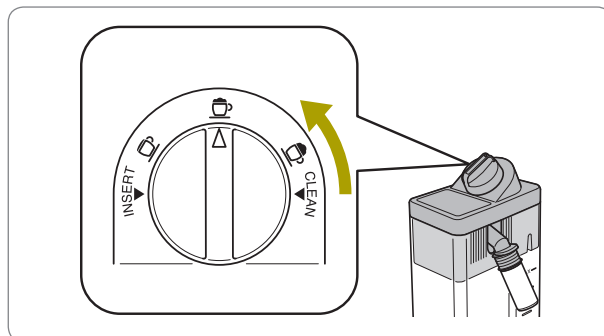


※インジケーターが最後まで進むと自動で停止します。

カンイセンジョウチュウ



- 3** フロス調整つまみを「CLEAN」の位置から ☉ ~ ☉ に戻す



! 衛生を保つため、次のことをお守りください。

- 一日の終わりには、ミルクコンテナに残った牛乳は必ず廃棄し、十分に洗浄してください。(31 ページ)
- すぐに廃棄しないときは、一時的にミルクコンテナを冷蔵庫に入れるなど、衛生面にご注意ください。
- 必ずスチーム管もお手入れしてください。(30 ページ) スチーム管に付いた牛乳が乾いてかたまってしまうと、故障の原因となります。

<知っておいていただきたいこと>

以下の場合にトレイから蒸気が出たり、トレイにお湯が少量たまりますが、異常ではありません。

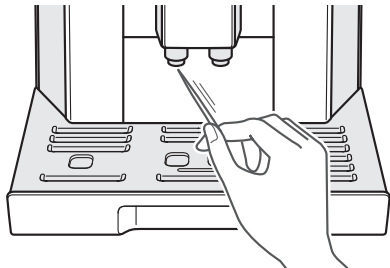
- 牛乳を泡立てた後
- フロス調整つまみを「CLEAN」に合わせてミルクノズルを洗浄した後
※牛乳を泡立てた直後や、ミルクノズルを洗浄した直後に、トレイを引き出さない (お湯が漏れる原因)

お手入れ(つづき)

抽出口

水洗いできません

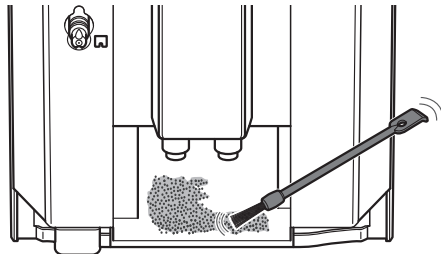
固く絞った濡れふきんで拭きます。抽出口を確認し、詰まっている場合はブラシや爪楊枝などを使って取り除きます。



本体内部

水洗いできません

本体内部のコーヒー粉は、付属のクリーニングブラシや固く絞った濡れふきんを使って取り除いてください。

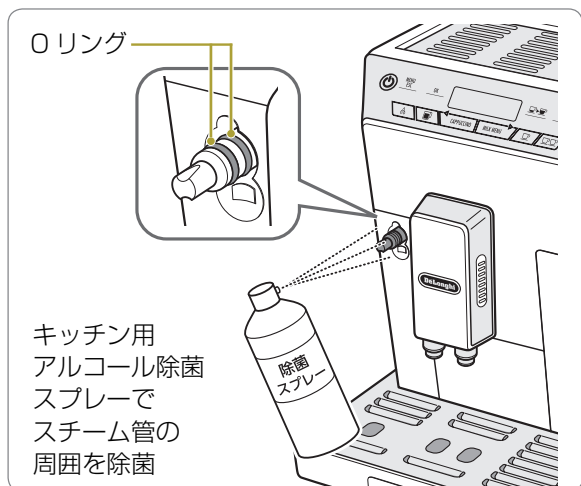


スチーム管 給湯ノズル

水洗いできません

水洗い、乾燥

① スチーム管の周囲を掃除する



キッチン用
アルコール除菌
スプレーで
スチーム管の
周囲を除菌

※ 先の細い柔らかいブラシで掃除し、固く絞った濡れふきんで、スチーム管とOリングを丁寧に拭いてください。

② スチーム管の穴を掃除する

爪楊枝などを使って、先端の穴をきれいにします。

③ 給湯ノズルを取り付け、お湯を出して洗浄する (22 ページ)

※ 電源を入れた状態で行います。

④ お湯が止まったら、給湯ノズルを取り外し水洗いする

! 給湯ノズル内に少量のお湯が残りますので、やけどにご注意ください。

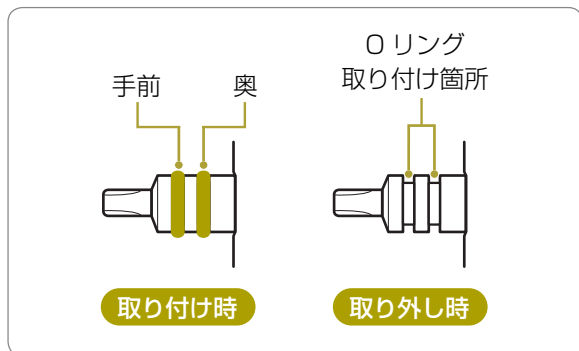
Oリングが破損していると、牛乳がきれいに泡立ちません。破損した場合は、予備のOリングと交換してください。(右記参照)
交換用のOリングをお求めの場合は、当社へご連絡ください。(39 ページ)

Oリングの交換

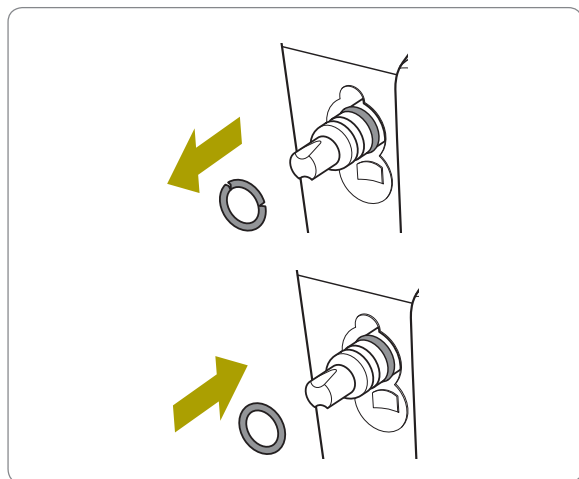
万一、スチーム管用Oリングが破損や欠損した時は、予備のスチーム管用Oリングに交換してください。

① スチーム管のOリングを確認する

スチーム管には2つの同じOリングが付いています。



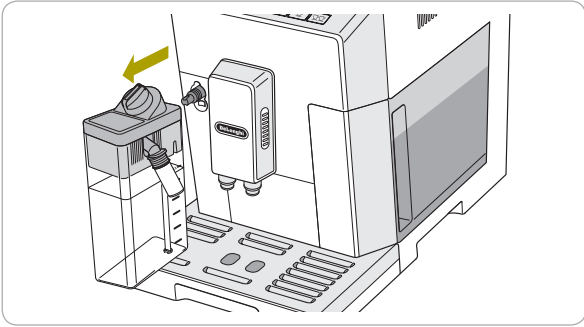
② Oリングが破損、または欠損している場合は、予備のOリングと交換または取り付ける



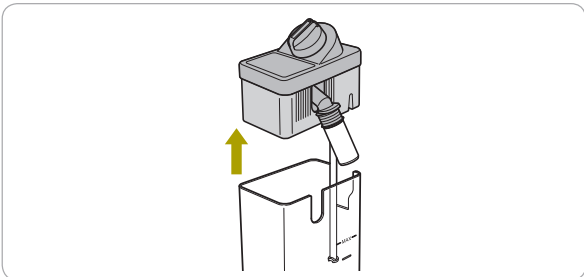
Oリングを交換しても牛乳がきれいに泡立たない場合は、当社 (39 ページ) にご相談ください。

1日の使用が終わったら、ミルクコンテナを取り外して洗浄します。

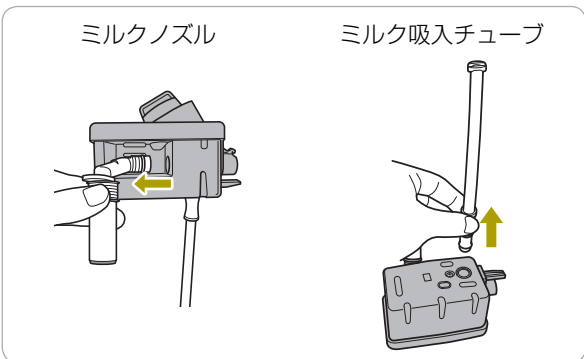
① ミルクコンテナを取り外す



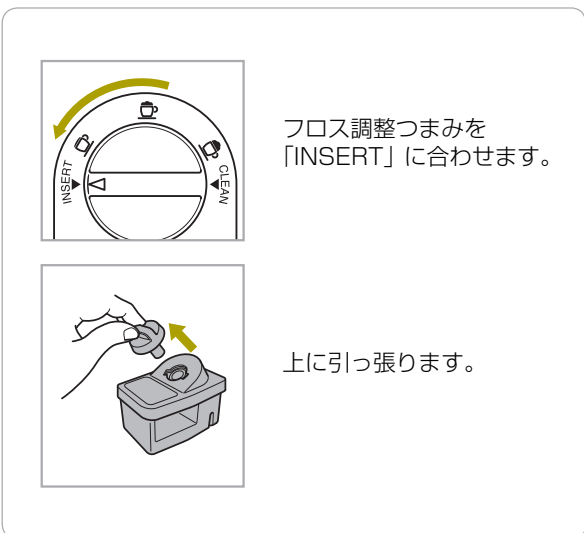
② ミルクコンテナのふたを取り外す



③ ミルクコンテナのふたからミルクノズルとミルク吸入チューブを取り外す



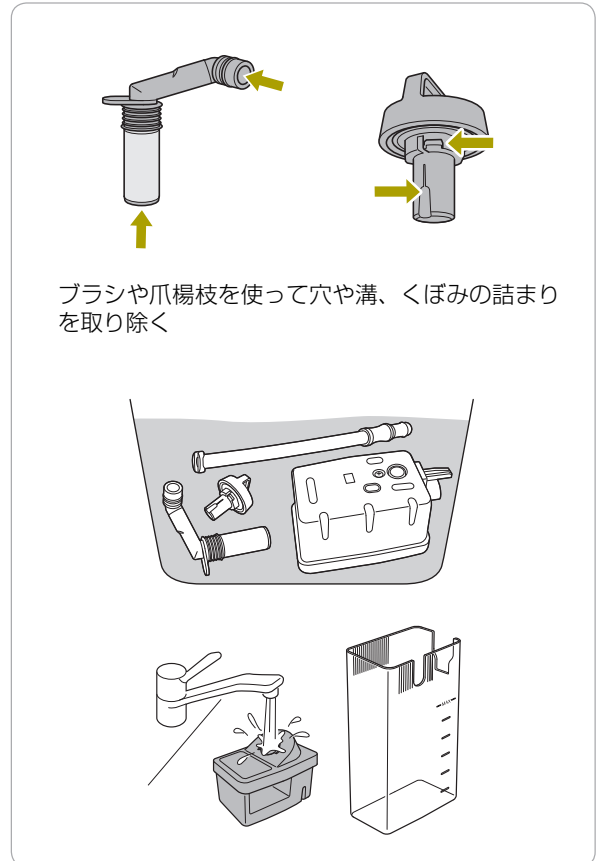
④ ミルクコンテナのふたからフロス調整つまみを取り外す



⑤ めるま湯と食器用洗剤でよく洗う

食器用洗剤を溶かしたぬるま湯に部品を浸けて洗浄します。ミルクコンテナ本体は、食器用洗剤を使って、水洗いします。

矢印（→）で示されている穴や溝、くぼみが詰まらないように、特によく洗ってください。その後、よくすすぎ、各部品に洗剤が残らないようにしてください。



⑥ 乾いたら、ミルクノズル、ミルク吸入チューブ、フロス調整つまみをふたに戻す

取り外したときと逆の要領で、ミルクノズル、ミルク吸入チューブ、フロス調整つまみをふたに取り付けます。

⑦ ふたをミルクコンテナに戻す